



Title	あいりん地域と結核を愛された井戸さん
Author(s)	工藤, 新三
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 17-18
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/100724">https://hdl.handle.net/11094/100724</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## あいりん地域と結核を愛された井戸さん

工藤新三

大阪市西成区役所（西成区保健福祉センター分館）  
社会福祉法人大阪社会医療センター付属病院

井戸さんの急逝には本当に驚き、なかなか信じられませんでした。体力維持のための運動などもよくされ、非常にお元気で結核勉強会の中心になりお世話をしていただきました。勉強会が天満にありました大阪公衆衛生協会の事務室で行われていました頃は毎回の会場準備をしてくださいました。出席者の席を作り、プロジェクターの準備、それにその日の資料をそろえてくださったのを思い出します。井戸さんとの出会いは私が大阪社会医療センターに勤務を始めました 2014 年以降の短い期間でした。それ以前の私の西成との関わりは、現在も西成区役所分館で行われています結核検診のレントゲン写真の読影に 1994 年頃から週 1 回、市大医学部から通っていました。しかし、レントゲンの読影のみで保健所の方や地域の方々との繋がりほとんどありませんでした。それ以前の西成との関わりでは看護師で西成の労働者のために働かれていた入佐明美さんを支える会に当初から参加していました。

井戸さんとは結核勉強会はもとより、大阪社会医療センターを通しての繋がりが中心でした。あいりんには結核やその背景にあります貧困問題の事などで地域の見学に多くの団体や個人の方が来られました。そのような人々の案内役をされたのが井戸さんでした。参加者の名札を作り紹介してくださいました。そして、あいりん見学の一つに社会医療センターも加えてくださいました。センターであいりんの紹介や結核の状況、大阪社会医療センターの歴史、無料低額診療のことなどについてスライドを用いて説明し話し合うことができました。井戸さんは診療放射線技師として結核検診に従事される中で結核患者と出会われ、その背景にある貧困、特に結核高蔓延地域であるあいりん地域において熱心に貧しさや結核患者のために働かれました。あいりんのことや結核のことで共に仕事ができたと本当に感謝しています。

井戸さんの娘さんであり保健師の山森さんとは分館に勤務しておられた頃にお世話になりました。特に、山森さんが分館であいりん地域の結核の仕事をされたことを井戸さんは非常に喜んでおられました。笑顔で紹介されたのを覚えています。

また、羽曳野病院（現；大阪はびきの医療センター）に勤め日本の結核医療に大きな功績を残された亀田和彦先生のお世話をよくされました。私自身は羽曳野病院時代を含め先生には多くのことを教えていただきました。井戸さんと亀田先生とのつながりは詳しくは知りませんが、羽曳野病院や藤井寺の保健所で亀田先生と一緒に結核の仕事をされたのではないかと思います。亀田先生が体調を崩され自宅で療養されていた時に、二人でお寿司をもって住吉のお宅までお見舞いに行きました。共に結核の仕事を長くされたことで深いつながりがあったのでしょう、その繋がりを非常に大事にされ、亀田先生を長くお世話をされました。

井戸さんとはそんなに年齢が離れていませんので、そう遠くない時期にお会いできるでしょう。そ

の時にはその後の大阪、特にあいりん地域のこと、結核の状況をお話できればと思います。



井戸さんは社会医療センターに多くの方々を連れてきてくださり紹介してくださいました。名札の準備などもしていただき、あいりんの説明や結核の状況、社会医療センターの役割について話し合うことができました。これは地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所と山形県衛生研究所の皆さんが見学に来られた時の写真です。（写真提供：工藤新三）

工藤新三（大阪社会医療センター附属病院 副院長 内科）（写真前列右から2番目）写真提供、

山田勉氏（大阪社会医療センター附属病院 保健主幹 臨床検査室）（前列右）

山本香織氏（地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所主任研究員）（後列中央）

於大阪社会医療センター附属病院（2019年2月）